

平成24年1月吉日

各 位

独立行政法人中小企業基盤整備機構
新事業支援部 販路開拓支援課

平成23年度第4回「ベンチャープラザファンド in Tokyo」開催のご案内

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当機構の諸事業に対し格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当機構では、具体的なビジネスプランを有するベンチャー企業がプレゼンテーションを行い、ベンチャーキャピタル等投資家との資金調達に関するマッチングを図ることを目的に、下記のとおり「ベンチャープラザファンド in Tokyo」を開催いたします。当機構の支援先企業であって資金調達を目的とする秀逸なビジネスプランを有する企業が東京に集まり、ベンチャーキャピタル等投資家の前でビジネスプランのプレゼンテーションを行うものです。<http://www.smrj.go.jp/ventureplaza/fundintokyo/index.html>

つきましては、別紙のとおりご案内をさせていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。また、大変恐縮ではございますが、ご参加いただけます場合には、同封の参加申込書に必要事項をご記入いただき、**FAX(03-5470-2368)**にてお申し込みくださいますようお願い申し上げます。

記

- ◆主 催◆ 独立行政法人中小企業基盤整備機構
- ◆後 援◆ 経済産業省中小企業庁、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会
日本ベンチャー学会
- ◆開催日時◆ 平成24年2月2日(木)13:30～17:30(予定)
- ◆プログラム◆ (13:00～開場・受付)
(予定) <プレゼンテーション>
13:35～ (株)再生エネルギー開発 (福岡県久留米市)
14:10～ バイオコモ(株) (三重県三重郡)
14:45～ (株)ブルックマンテクノロジー (静岡県浜松市)
15:20～ (株)トヨコー (静岡県富士市)
<商談会>
16:00～
- ◆参加対象者◆ ベンチャーキャピタル、証券会社、保険会社(直接投資部門)、
事業会社(キャピタル部門)等。その他、直接投資が行える機関や投資家。
- ◆定 員◆ 40名
※定員に達した後にご応募いただいた場合は、お電話にてご連絡致します。
なお、当日は受付にて名刺を1枚頂戴しますので、ご用意をお願い致します。
- ◆応募締切◆ 2月1日(水)
- ◆会 場◆ 中小機構本部 2階 2A・B 会議室
東京都港区虎ノ門 3-5-1 虎ノ門 37 森ビル
TEL 03-5470-1525(ダイヤルイン)
- ◆参加費◆ 無料

【お問い合わせ先】 独立行政法人 中小企業基盤整備機構

新事業支援部 販路開拓支援課(担当:今里、根本)

〒105-8453 東京都港区虎ノ門 3-5-1 虎ノ門 37 森ビル 5階

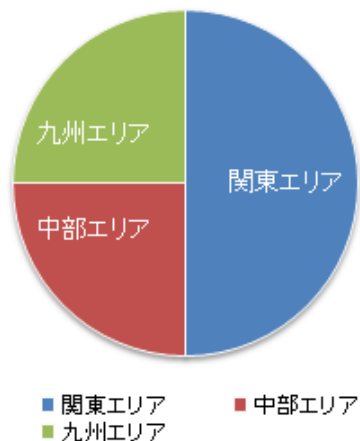
電話: 03-5470-1525 FAX: 03-5470-2368

平成23年度第4回ベンチャープラザファンド in Tokyo

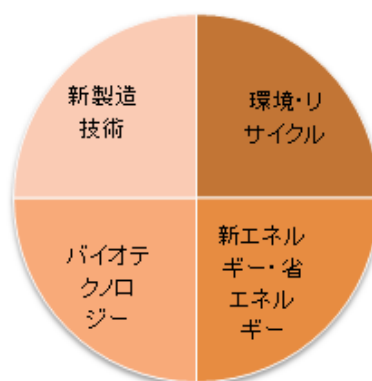
開催概要			
月 日	時 間	内 容	
2月2日(木)	13:00	開場・来場受付	
	13:30	開会	
		プレゼンテーション	
		企 業 名	ビジネスプラン (事業名)
	13:35	(株)再生エネルギー開発	冷凍・冷蔵倉庫向け電動フォークリフトバッテリーの再生レンタル事業
	14:10	バイオコモモ(株)	ヒトパラインフルエンザウイルス2型ベクターを用いた遺伝子組換えワクチンの開発
	14:45	(株)ブルックマンテクノロジー	高性能イメージセンサの開発・販売
	15:20	(株)トヨコー	レーザー塗膜除去新工法「CoolLaser」による橋の塗替革命
16:00	商談会 (～17:30まで)		

※プレゼンテーション終了後、発表企業との商談会を行います。ここでは、発表者への質問や個別商談を行っていただけます。

平成23年度第4回発表企業所在地別分布図



平成23年度第4回発表企業事業区分



発表企業のプロフィール

株式会社 再生エネルギー開発（代表取締役 平塚正行）

【住 所】：〒830-0023 福岡県久留米市中央町33-6

【設 立】：2011年 8月

【資 本 金】：10,000千円

【従 業 員】：10名

【U R L】：<http://www.renewable.co.jp/>

【資金調達希望額】： 50,000千円

【資金使途】：販売範囲拡張に伴うバッテリー再生装置製造向け設備投資

【業 種】：再生バッテリー以外事業、ワイヤール発電機による発電事業 等

【事業内容】



平塚 正行

● 再生バッテリーレンタル事業

再生を行ったバッテリーを冷凍・冷蔵倉庫企業向けにレンタルし、冷凍・冷蔵倉庫で使用されているリーチ式フォークリフトバッテリーのメンテナンスを含めたバッテリーレンタルシステムを構築します。

AVG、フォークリフト等再生バッテリーのレンタル事業



冷凍・冷蔵倉庫で使用されるリーチ式フォークリフトの使用環境は0度～マイナス40度と非常に過酷な状況で稼働しております。通常5、6年持つバッテリーも2、3年しか持たないのが現状です。

業界の状況は一度バッテリーを購入するには数十万円の資金投入が必要で、メーカー保証も1年しかありません。途中で故障すれば、また多額の投資をしなければいけない環境です。

この市場は規模的にはほぼ無限にあり非常に成長が望め、この再生バッテリーレンタル事業は業界で初の試みになり競争相手も今はほとんどありません。

発表企業のプロフィール

バイオコモ株式会社（代表取締役 福村正之）



【住所】：三重県三重郡菟野町大字菟野1325

【設立】：2008年5月30日

【資本金】：23,000千円

【従業員】：2名

【URL】：<http://www.biocomo.jp/>

【資金調達希望額】：50,000千円

【資金使途】：遺伝子組換えワクチンの開発費用

【業種】：医薬品開発製造業

【沿革】：平成20年5月 創業

平成21年8月 三重大学大学院医学系研究科感染症制御医学・分子遺伝学分野
独立行政法人医薬基盤研究所霊長類医科学研究センターと共同
研究契約を締結

平成21年9月 三重大学大学院にて研究開発を開始

平成22年4月 三重大学 キャンパスインキュベータに入居

平成22年6月 経済産業省平成22・2）3年度地域イノベーション創出研究開発
事業採択



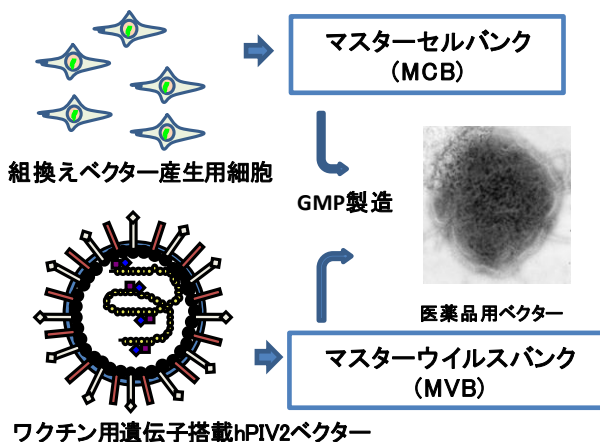
【事業内容】：世界3大感染症（エイズ、マラリア、結核）を初めとする多くの感染症には、防御ワクチンがなく、これら3大感染症だけでも世界で年間500万人近い尊い命が奪われています。バイオコモ株式会社は、感染症等の撲滅のため、新規な遺伝子組換えベクターの開発を通して、感染症等に苦しむ人々の救済を目指しています。

当該ワクチンは、三重大学で開発されたヒトパラインフルエンザ2型ウイルスベクター技術を利用し、ヒト呼吸器への経鼻噴霧型の新規遺伝子組換えワクチンです。既に、動物試験での高い結核菌増殖抑制効果が確認されており、実用化に向けたベクタースペックの構築、当該ベクターの効率のよい産生細胞取得、quality controlされた細胞取得等が完了し、前臨床試験の段階に入っています。ヒトパラインフルエンザ2型ウイルスは、成人での重篤報告例がなく、当該ベクターも安全性が高いと考えられます。当該技術はプラットフォーム技術であり、多くのアンメット・メディカルニーズに応えることが可能で、多くの感染症等への応用が検討されております。

開発は基本的技術整備段階を終了し、当該技術の導出段階に入っております。

開発対象

- ・アンメットクリニカルニーズの感染症ワクチンの研究開発
- ・がんワクチンの研究開発
- ・ワクチン製造用細胞の提供



発表企業のプロフィール

株式会社 ブロックマン テクノロジ (代表取締役社長 青山聡)

【住所】：浜松市中区和地山三丁目1番7号(～1/18迄)
(1/19～：浜松市中区大工町125大発地所ビル10階)

【設立】：2006年2月14日

【資本金】：69,500千円

【従業員】：12名

【URL】：<http://brookmantech.com>

【資金調達希望額】：300,000千円

【資金使途】：開発製品の評価・検査設備導入、生産管理・販売体制構築、新規製品開発

【業種】：半導体集積回路の開発・販売

【事業内容】：

1) 特殊用途向けイメージセンサ/カスタムイメージセンサの開発・販売

1-1) 超高速イメージセンサ：BT130A

◆1秒間に2000回シャッター撮像および出力が可能な超高速センサ。従来品よりもノイズが少なく映像がきれい。しかも低消費電力を実現。

1-2) 超高感度イメージセンサ：BT130C

◆月明かり(0.01Lux)程度の暗い場面から明るい場面も白とびがなく撮れる。従来に比べて小型、低消費電力カメラシステムの構築が可能。

2) カスタムイメージセンサ設計に関するコンサルテーションおよび設計開発請負

静岡大学発ベンチャー企業。半導体技術のオリンピックと呼ばれる国際会議(ISSCC)にほぼ毎年採択されるなど卓越した技術をもとに、設立から4年間イメージセンサのカスタム設計・開発を中心とした設計・開発受託を主たる業務とし、順調に成長してきた。これまで大手半導体メーカ4社、自動車メーカ2社、大手セットメーカ、国立研究機関等を含む十数社に対して、のべ50件以上の受託開発実績を積んできている。そして2009年11月に「超高感度高速度イメージセンサ」のテーマが、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の研究開発最優展開支援事業(A-STEP)「本格研究開発ステージ実用化挑戦タイプ」に採択されたことを契機として、従来より考えていたファブレスメーカとして自社ブランド製品を展開する事業に取り組んでいる。現在までに上記支援事業による開発品を含めた特長ある2製品：超高速イメージセンサ(BT130A)および超高感度イメージセンサ(BT130C)の開発をほぼ完了している。共に展示会等において多くのポテンシャルカスタマからテストサンプルに対する高い評価が得られ、量産前サンプルの出荷を2012年4月から行えるまでに至っている。今後、資金投入によりメーカとして信頼のおける量産体制の整備(人：生産・品質管理および営業・販売サポート体制強化/モノ：品質評価・検査設備導入)を早急に行う方針である。(量産受注、拡販のためには、サプライチェーンに対する顧客信用確保が必須。)さらにこれらモノづくりの実績をもとに上記展開品の開発・販売、その他各種カスタムセンサ製品開発事業の拡大、中量ボリュームゾーンへの進出といった事業拡大へとつなげていく。

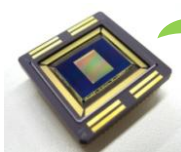


代表取締役会長
川人祥二



代表取締役社長
青山聡

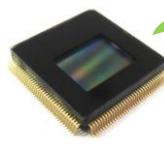
BT130A
超高速イメージセンサ



瞬間を“きれいに”



BT130C
超高感度イメージセンサ



暗闇を“はっきりと”



発表企業のプロフィール

株式会社 トヨコー （代表取締役 豊澤 弘康）

【住 所】：静岡県富士市青島町39番地

【設 立】：1996年 3月1日

【資 本金】：50,000千円

【従 業 員】：10名

【U R L】： <http://www.toyokoh.com>

【資金調達希望額】：100,000千円

【資金用途】：当社新規事業である光事業の研究開発試作機製作及び販路開拓資金

【業 種】：建設（塗装・防水）分野における環境事業

【事業内容】：

当社は現場で培った特殊な塗装・防水技術をベースに顧客が持つ課題を第一に考え、提案・実行・解決を目指す。旧態依然とした業界の技術のみに頼らず、独自の視点で考えるモノづくり（開発）に積極的に投資し、展開する。

現在、当社主流事業である「蘇生」事業に加え、更なる安定成長を実現する為、新規事業（光事業）として国・自治体や道路・鉄道会社等が抱える社会資本である巨大インフラ整備事業に進出する。

【蘇生事業】既存事業（新連携認定事業）

“スプレーカバー工法（3層特殊樹脂吹付け）による工場屋根・の断熱、防水、補強”



老朽化した国内製造工場の屋根・壁の修繕は、廃材をなるべく出さず延命化することが求められている。

新設より改修市場が増えることは鮮明。

震災（耐震対策）や省エネ（断熱対策）の影響もあり、屋根・壁の改修ニーズは徐々に高まってきており、改修ニーズは5～10年後がピークとなることが予想される。

【光事業】新規事業

“レーザー塗膜除去新工法にて、大型鋼構造物の長寿命化の為の最適な下地処理

（旧塗膜の完全除去）を行う”

2007年アメリカミネソタ州で起きた橋崩落事故の原因の一つに下地の腐食が挙げられている。同様に日本の橋梁についても腐食を防止して延命化する為に、塗装を完全に除去して塗り替えを行うことが必要とされている。そのようなニーズを持つ国や自治体、道路会社・鉄道会社等に対して、レーザー装置を用いて塗膜を除去する施工工事の提供を行う。

また、全国の地場の施工業者に対してレーザー装置自体のレンタルを行う。



現状はグラインダーやプラスト処理（砂粒等を高速でぶつける方法）で対応しているが、大量の廃棄物や多額の処理費用、母材である鉄鋼材のダメージ、作業者の健康被害等問題がある。このように、塗膜を完全除去できる有効な解決策は開発されていない状況である。

レーザー塗膜除去新工法「CoolLaser」クーレーザーによる処理はこれらの問題点を解決できる。更に、現場作業の効率を良くし、且つ価格競争力も持つため技術的優位性が高くなっている。

